サラ ボッカ 米国出身の元女 ／モデル

:

明:
元女 ／モデル／フィットネス ／活 家だったサラ ボッカ が、いかにマイアミの魅惑的なライフスタイルを てイスラ ムに改宗し、イスラ ム的な女性の服装を通して真の自由を したかについて。

目: 事新改宗者ムスリムの逸 著名人

より: サラ ボッカ

日26 Jan 2015

集日 26 Jan 2015

私はアメリカの中部で生まれた、アメリカ人女性です。私は他の女性たち同 に「大都会」での生活にあこがれて育ちました。やがて私はフロリダ州に引っ越し、 やかな人生を求める人々にとっての中心地であるマイアミのサウスビ チに移り住みました。当然のように、私は他の一般的な欧米人女性たちと同じことをしました。私は外 と服装に注力し、他人からの をどれ程浴びれるかを自己 の基 としました。私はトレ ニングにも励み、パ ソナル トレ ナ の 格を得て、海岸沿いにある上流 向けの住宅地に住み、露出好きなビ チの常 となり、きらびやかな人生を送るようになりました。

数年が ち、私は自己 成の基 と幸福さは「女性らしさ」をアピ ルすればする程どんどん下がってくることに が付きました。私はファッションの奴 でした。私は自分の外 に束されていたのです。

自己 成とライフスタイルのギャップが けば くほど、私はアルコ ル、パ ティ 、瞑想、社会活 、新 宗教などに捌け口を求めましたが、それらによって小さなギャップが巨大な谷 のように まるのを感じただけでした。やがて私はそれらが 解 ではなく、 痛 の役割しか果たしていないことに 付きました。

フェミニスト 自由主 者として、またより良い世界を追求する活 家として、私の道は人の改革と正 を 条件に追求していたある活 家のそれと交差しました。私は当 、 改革や市民 などの活 を行っていたその人物に、自分の新たな として仰ぎました。そうして、私の活 は根本的に なるものとなりました。一部の のみに して 的に正 を提唱するのではなく、正 、自由、敬意などの理想の本 は普遍的であり、 人の利益と公共の利益は 突しないということを学びました。私は始めて「人 、皆平等」が何を意味しているのかを知ったのです。しかしより重要なこととして、私は世界が一つであり、被造物が 和していることを 付くためには、信仰が必要であることを学んだのです。

ある日、私は欧米において好ましくない偏 を持つ本にばったりと出会いました。 クルア ンです。その まで、私がイスラ ムについて知っていたことといえば、女性たちが「テント」によって覆い され、家庭内暴力やハ レム、そしてテロに象 されるということだけでした。私はまず、クルア ンの 式や手法に 味を持ち、存在、生命、 造、そして 造主と被造物の についての世界 に魅了されました。私はクルア ンが、解 や牧 などを必要とせず、直接心と魂に りかけるということを 出しました。

やがて、私は真理に到 します。それは、私の新たな自己 成の活 は、ムスリムとしてイスラ ムの信仰を受け入れ、平 の中に生きること以外にはないということでした。

私は な 衣とベ ルを 入し、ムスリム女性のような格好で、ほんの数日前には半袖とビキニ、あるいは「エレガント」な欧米のビジネスス ツで いていた近所の道ばたを いてました。人々の や 店などの 景は同じでしたが、ひとつだけ著しく なることがありました。それは、私が生まれてはじめて感じた、女性としての安心感でした。それはあたかも から解き放たれ、自由になったかのような感 でした。私は 物を狙い定めるような目ではなく、 きの眼差しを向けられるという新たな に喜びました。急に、 肩から重荷が下ろされたような感じがしました。私は い物、化 、美容室、 などに全ての を やさなくなりました。私はようやく自由になったのです。

私は他でもない、「地球上で最もスキャンダラスな 所」の中心でイスラ ムを 付け出したのです。そのことは、私にとってさらに素 で特 なことです。

最近では、政治家やバチカンの　者、自由主 者、人　自由活 家らによって、ヒジャ ブ（スカ フ）の着用は女性の抑 であり、社会の 合への障害であるとして非 されています。エジプトの政府　者はそれを「　性の象 である」とまで主 します。

いわゆる人　体などの一部の人々が、特定の国家が女性への服装 定を すと、女性への 利侵害だと主 しながらも、それらの「自由 士」たちは女性たちが就 の 会や教育の 利を剥されていることからは目をつむり、ヒジャ ブを被る女性たちに してだけそのように振舞っていることはあからさまな 善行 だと思います。

私は 在もフェミニストですが、ムスリム女性が良きムスリムであるよう、彼女らが夫に奉仕する 任を果たすことを呼びかける、ムスリム フェミニストです。そして彼女らが子供たちを　なムスリムとして育て、彼らを再び全人 にとって きの光とすることです。それはあらゆる善を命じ、あらゆる を禁じることであり、真 を り、あらゆる に して声を上げることであり、そして私たちの 造主をご 悦させるため、ヒジャ ブ着用の 利のために うことなのです。しかし、ヒジャ ブを着けるということを理解する 会に まれなかった女性たちに、私たちがヒジャ ブを着けることの意味と、そしてなぜそのことにとてもこだわるのか、ということを私たちの　 を通して分かってもらうことも、同じくらい重要なのです。

意 してかせずか、女性たちは事 上、世界中のあらゆる 所とあらゆる通信手段によって、「殆ど何も着けない」スタイルを める集中攻 に晒されています。元非ムスリムとして、私はヒジャ ブとその 、そしてそれが女性の人生にもたらす幸福を知る 利を要求したいのです。 去に、ビキニは私の自由の象 でしたが、　それは私の精神性、そして尊 ある一人の人 としての真の　から私を ざけていたに ぎませんでした。

私はサウスビ チでビキニを脱ぎ て、「魅惑的」な欧米のライフスタイルから脱却し、造主と平 な　を けたこと、そして他の人 同 に　ある人物として人生を 歌していることについて、これ以上ない程に喜びを感じています。

今や、ヒジャ ブは女性が自らを 放し、人生の目的を 出し、 造主といかなる を持つのかを示す、新たなシンボルなのです。

イスラ ム的な 虚さを表すヒジャ ブに する固定概念に酷く凝り固まった女性たちに、私はこう言いたいです。「あなたたちはまだ何も分かっていないのよ」と。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/1640

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。